

県警の特別訓練員に白バイ部門で選ばれた交通機動隊の佐藤さん(25)「伊達市出身」は、厳しい訓練を経て全国大会出場を目指す。白バイの特別訓練員に女性が選ばれるのは13年ぶり。自らの運転技術向上が飲酒運転撲滅にもつながると信じ、訓練に臨もうとしている。

共に県警の女性白バイ隊「スノーラビッツ」に所属。初任地も同じ郡山北署だった2人は「白バイをさっそうと乗りこなす交通機動隊に幼い頃から憧れていた」と口をそろえる。

「小学生の時に、偶然出会った隊員に白バイに乗せてもらったことを今でも覚えていて」と猪又さん。隊員になりたいという娘を両親は心配したが、夢を追い続け、2023年、念願のスノーラビッツの制服に袖を通した。佐藤さんも白バイへの思いは強い。入隊試験を受け続け、昨年に3度目の挑戦で突破。「警察官を志したのはテレビで見た女性白バイ隊員の姿がきっかけ。特別訓練員は入隊時から目標だった」と言い切る。訓練員への誘いがあつた時には「すぐに返事をした」と明かす。

一方、猪又さんには迷いもあった。訓練員のトレーニングは早朝から深夜まで及ぶ。2人が暮らす自宅では訓練員がかかるエンジン

の音が目覚ましのように響く。鍛錬を重ねる訓練員に

憧れ 白バイ特別訓練員に

「学んだ技術を生かす」

佐藤さん

(若松出身)

猪又さん

(伊達出身)

間近にしてきただけに「自分が最後までやり切ることができたらいい」と自信が持てなかった。訓練員になる決意を固めた頃、郡山市の「JR郡山駅前」で大阪府の予備校生の女性「当時(19)」が飲酒運転の軽乗用車にはねられ死亡した事故が起きた。現場は郡山北署に勤務した当時、プライベ

ートでよく通った道だっただけに「何とか防ごうとできなかったのか」と悔やんだ。

死亡事故の発生から22日で3カ月。白バイ隊員にな

る夢をかなえ、訓練員という次の目標へ励んでいた佐藤さんは、同世代の夢に向かう若者が犠牲となった事故に心を痛めた「送り出して二度と『たいたいま』を聞けなくなつた」と娘を失った家族の心境を思いやる。

佐藤さんと猪又さんは10日、特別訓練員として正式に指名を受けた。5月にも始まるようとする訓練を前に2人は誓う。「自分たちの取り締まりが悪質な事故をなくすことにつながる。学んだ運転技術を取り締まりに生かしたい」(島津遥菜)

悪質な事故をなくすため、運転技術向上へ訓練に臨む佐藤さん(左)と猪又さん



▲ 4月22日 福島民友新聞掲載

佐藤さんと猪又さんが白バイ隊員を目指したきっかけは、それぞれどんなことですか？

佐藤さんと猪又さんは、これからの訓練を前にどのような思いを抱いていますか？

白バイ特別訓練員の訓練内容や活動について、インターネットなどで調べ、それらをまとめてみましょう。